

ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第7話 「喫茶店の隣の人」

【登場人物】

後輩：主人公 男 ジト目・ダウンナー系・パーカー・冷静

先輩：男 短髪・Vネック・Macbook Air・iPhone
・「ゴツゴツ」の財布・陽気・バカっぽい

後輩 「あ、先輩おつかれっす。久々っすね」

先輩 「よお……久々だなあ元気!？」

後輩 「まあぼちぼちですかねー、就活してゐっす」

先輩 「お前ももう4年かあ早いなあ!」

後輩 「先輩は仕事どうですか、結構忙しいですか」

先輩 「いやー実はちょうど先週退職したんだよね」

後輩 「え……? マジっすか? 先輩、こんな時代に大丈夫っすか?」

先輩 「おいおい、俺も成長したんだよ。ほら、帯に短し襷に長し、っていうじゃん。
しかも今は投資とビジネスやってんだよ」

後輩 「先輩、それ意味違っす。しかも投資とビジネス?」

先輩 「で、せっかくだからさ、後輩のお前にも紹介してあげたいなと思って」

後輩 「勘弁してくださいよ、絶対やばいやつの勧誘じゃないっすか?」

先輩 「投資って言っても危ないもんじゃないから。それは知らない人の言い訳な

のよ、馬の耳に念仏って言うじゃん」

後輩 「てか聞いてますっその例えも間違ってるし」

先輩 「いまって就活とバイト同時並行してる感じっ」

後輩 「え、まあそうですね。みんなそうですね」

先輩 「それじゃだめなんだよ！なんで砂漠地帯の子どもがなかなか勉強できないか知ってるっ」

後輩 「うわ、なんか始まりそう」

先輩 「水道の通ってない村の子って、井戸まで毎日数時間かけて水を汲みに行くんだよ」

先輩 「だから学校に通う時間が無いわけ。君のしてるバイトってそういうことなんだよ」

後輩 「はあ…」

先輩 「上手くいく環境を手に入れるには資本が必要なの。だからまず投資を始めようって話」

後輩 「なんか話飛んでないっすか??下手じゃない??水関係ないと思うんですけど?」

先輩 「今は水の話じゃないだろ!」

後輩 「えー!」

先輩 「俺もこの投資し始めて、もうガラッと生活変わったから!これマジだよ」

後輩 「それ、良く聞くフレーズっすよ」

先輩 「周りの人間とおんなじ生活してたら、そりゃありきたりな人生しか送れないよ」

後輩 「聞いてます?ねえ」

先輩 「朝はゆっくり起きて、昼は仕事。夜は早々に切り上げて読書したり好きな音楽聞いたり、自分を高めていくんだよ」

後輩 「テンプレっすねえ?先輩、言い切らないと止まれないの?」

先輩 「どう?興味出てきた?」

後輩 「出てこないっすよ!」うちの話を聞いてくださいよ!」

先輩 「そうかー？まあ具体的な話聞いたら絶対ワクワクすると思うからなー」

後輩 「ちょ、ちょっと待っててください。確認ですけど、「この投資への勧誘？」って俺が初めてですか？」

先輩 「うんーやっぱり良い話は本当に信頼できるやつしか出来ないからねー」

後輩 「情に厚い男ではあるんすよねえ。先輩」

先輩 「お前とは大学時代ずっと一緒だったからねー」

後輩 「先輩他に友だち居ないじゃないですか。学食でも俺の横にいただけで、誰も聞いてない話してましたもんね」

先輩 「やっぱり友だちには良い生活送ってほしいのよー！
色々厳しい時代じゃん？」

後輩 「良い人のままで居てくれー」

先輩 「この前もあったじゃん、老後2000万円問題。実際2000万円じゃ全然足りないって言われてるんだけど」

先輩 「自分のお金は自分で作る時代なのよ。正直会社にも守ってもらって時代は終

わったと俺は思うわけ」

先輩 「これからは個人で稼ぐ時代よー！人脈とかも広げてかないと！」

後輩 「先輩、もっと早く具体的な話できないっすかね？俺、そろそろいかないと」

先輩 「昔だったら大学行って就職すれば何とかなったけど、今って大学進学率5

5%くらいなのよ」

先輩 「ちなみに55%って言っと、主食の炭水化物の割合もそのくらいだと健康に良いらしいね」

先輩 「まああくまで一般論だけど。個人差もあるし、向き不向きがあるからなんとも言えない」

後輩 「健康のこと詳しいなあ……」

先輩 「これだけやれば痩せるーみたいなのあるけどさ、ああいうのは全部フソ。バランスの良い食事と適度な運動。結局はこれ以外無いから」

後輩 「先輩、投資の話してくださいよ。例えば、先輩、健康と投資はなんかないんすか？」

先輩 「ないなあ」

後輩 「あるでしょ。なんか詐欺っぽいやつ」

先輩 「健康を投資にするなよー！」

後輩 「えー…」

SE 携帯電話のバイブレーション

先輩 「お、ちょっとごめん。知り合いの社長から電話だわ」

後輩 「はいはい」

先輩 「はい！もしもし！お疲れさまです、ああ今ハワイなんすか！良いっすね」

後輩 「ありきたりな社長だな！」

先輩 「いつもの、はいはい。了解です、空港に手配させますー！」

先輩 「緑と白が6本、虹色10枚ですね。はい、よろしくお願ひしますー！」

後輩 「なに！？なに手配してんですー！？」

先輩 「わりいわりい」

後輩 「ダメな言葉」

先輩 「最近手広くやっててオ、最初投資で金作って、そこから自分のビジネス始めたのよ」

後輩 「先輩、オさすがにクスリはやばいですって」

先輩 「クスリ？何の話してんの？俺靴下の小売やってんのよ」

後輩 「靴下？」

先輩 「靴下って意外とお気に入りに入ってなくない？弊社が出してる靴下は履くとちよつとテンションが上がる、そんなデザインを意識してやらせていただいております」

後輩 「宣伝はじめないで。でも着眼点には光るものを感じるわ。普通に欲しい」

先輩 「で、投資の話なんだけども」

後輩 「良く戻れますね。先輩、靴下売ったほうがいいんじゃないですか？健康も詳しく…」

先輩 「(遮って)FXって分かる？外国為替証拠金取引ってやつなんだけども」

後輩 「ちよくちよく良い人柄出てくるけど、全般的に騙されてるんだよね」

先輩 「それをさ、「こう上手い」と取引してくれる人工知能を使わせてもらってんのよー」

後輩 「うんうん、はいはい」

先輩 「アメリカの大学の教授が開発してるらしくて、「これがもう凄いだわ」

後輩 「もういいすわ、帰らしてくだわ」

先輩 「おい待って待ってー真面目に聞けよー！この案件やらないのは正直意識低いと思ってるよー」

後輩 「真面目に聞けるかー」

SE 携帯電話のバイブレーション

先輩 「もしもし？ あれ、ばあちゃんー？どしたの急にー」

先輩 「ああ花届いた？ うん、うん、良かったー」

先輩 「前久々に花束が欲しいって言ってたからさ、いや全然だよー」

やっぱりあちゃんには笑顔でいて欲しいんだよ。

うんうん、元気にしててねーじゃあねー!」

後輩 「良い孫だなー」

先輩 「わりいわりい」

後輩 「言い方がダセえなー!」

先輩 「で、そのアメリカの教授との」ネクシヨン持っているのが俺のグループだけなのよ」

後輩 「また戻った!」!」!」

先輩 「でその投資が、最初に100万だけ用意して貰う必要があるんだよ」

後輩 「はあ…先輩、それマルチ商法っす」

先輩 「いやいや、本当に信頼できる人たちで…」

後輩 「紹介料ビジネスです。1人紹介する度にお金貰えるんですよ?」
で、俺もそれやれって話でしょ?」

先輩 「お、おう! そうなんだよ、だからお前も…」

後輩 「それね、誰かが最後損する」といになるでしょ？その投資自体は取引回数増やすための稼げない代物なんだから」

先輩 「え、いやいや、俺はそこまで分かんないし…」

後輩 「ところで先輩、仮想通貨って知ってます？「ビットコイン」とか。FXとか古いっすよ。今どきは仮想通貨っす」

先輩 「え、まあ知ってるけど…でも危なそうじゃない？」

後輩 「そう思うじゃないっすか。でもそれって昔の話なんすよ。CMとかでも見ません？」

先輩 「あー確かにー芸人とか俳優とか出てるよな」

後輩 「芸能事務所ってちゃんと調べるから、安全な会社のCMにしか所属タレント出さないんですよ」

先輩 「まあ詐欺の会社のCMとか出てたら大変だもんね」

後輩 「テレビ局もめっちゃ審査しますからね。仮想通貨ってもう安全で稼げるかわら流しちゃうんですよ」

先輩 「なるほどねー……視聴者が損しちゃったら普通流さないか」

後輩 「仮想通貨の方が価格変動が大きいから、それだけチャンスが多いんですよ」

先輩 「いやあ実は勧誘も上手く行かなくてさ……」

後輩 「そっでしょ？実際のところ儲かっていますっ……」

先輩 「ぜんぜんなんだよー、お腹いっぱいご飯食べたんだよお」

後輩 「最初に100万かかるんですけど、いけますっ……」

先輩 「それはまあー借金すればなんとかなるだろうー」

後輩 「じゃあこちらにサイン……」

先輩 「うっすーオーケーー！オーケーー！」

後輩 「勧誘はこっやってやんだよ……先輩……今すぐ転職先探しよ
う……」

先輩 「え？靴下屋、一緒にやんないの？」

後輩 「やっぱ、根はいい人なんだよなー」